

(答弁書第二十四号) 昭和二十二年八月十三日配付

内閣参甲第二八号

昭和二十二年八月十二日

内閣総理大臣 片山 哲

参議院議長 松平恒雄殿

参議院議員小川友三君提出外交問題に関する質問に対し、別紙答弁書を送付する。

參議院議員小川友三君提出外交問題に關する質問に対する答弁書

一、七月一日政府の施政演說中に於て總理大臣より平和國家日本の建設及び國際社会への復歸希望等に關し政府の方針を申述べたこと御承知の通りであるが今日の所改めて外務大臣より御質問にあるが如き声明を出すことは考えて居ない。

二、御意見の通りである。尙我方としては議會の決議により又は色々他の團體より連合國軍最高司令官に種々の機會に謝意を表した次第は御承知の通りであるが今後適當な機會に於て米國に対し何等かの意思を表明しうると期待している。

三、昨昭和二十一年中においては、主として戰時中からのストック品による輸出が行われ生糸が四七%余を占め輸出相手國は米國が六八、八%をもつて首位、その他は朝鮮(一九%)、中國(七%)香港(三、一%)となつていた。然るに、本年上半期においては、アメリカにおける賣行不振のため生糸の輸出が停止し、これに代わり、新規生産物殊に昨年六月以來輸入を見た米棉による棉製品の輸出が始まり、總輸出

額の四二%余をもつて我が輸出の大宗となるに至つた。輸出相手國においても、これを反映して、米國向が激減して一八、七%となり、蘭印向一六%、朝鮮向一五%、中國向一一%、英國向一〇%等となり、廣くアジア、ヨーロッパ、アフリカ、南米等の諸國に輸出先が拡大された。従つて貿易再開後何國向が首位を占めるやを適確に見透すことは困難であるが唯今度來朝する海外貿易代表のうち米國貿易業者は、最も多数を占め、又その対日貿易に対する関心も深いようであるから、米國向雜貨、纖維製品の輸出は、相当好刺戟を受け矢張り当分の間は米國が我が輸出相手國の首位を占めるのではないかと期待される。

四、今日世界各國共に、食糧問題の解決についても、經濟の再建についても、いずれも米國よりの食糧品又は機械、原料、資材の供給に依存せざるを得ない狀況であつて、我が國としても、食糧問題の解決及び經濟再建のために必要な長期クレジットは米國に依存するの外はないと思ふ。